南空知地域リハビリテーション広域支援センター平成 22 年度活動報告

活動目標

高齢者や障がい者等が地域でいきいきと暮らせるために、当推進会議が担うべき役割や活動の方向性、可能性を明らかにし、そのために必要な組織のあり方等について専門部会で検討する。

検討結果については、平成 23 年度の総会において報告し、当推進会議の方向性について結論を得ることとする。

活　動	活動の達成度
(1) 活動の評価と現状把握	成果物として報告書を作成中。年度内に完成予定。評価は①活動目標、②活動内容、③組織体制、④財務体制、の４つの側面から行った。これらに関して、専門部会の議論と会員へのアンケート調査をもとに評価を実施。
(2) 今後の方向性の検討	(1)の評価をもとに、今後の方向性について、専門部会としての提言をまとめ、平成 23 年度総会ではかる予定。
(3) 講師派遣事業	活動実績はなし。
(4) 関係諸会議への出席	南空知保健医療福祉圏域連携推進会議生活習慣病対策専門部会に本会の代表者が出席した。
(5) 総会、専門部会の開催	総会を１回／年、専門部会を９回／年の頻度で開催した。

現在の問題点・困っている点

○運営資金を確保していない。このため、当会として自立的に事業を展開していくことが難しい状況にある。

○当会の組織運営や事業運営に関して、関係者と行政間で考え方を共有させることが難しい状況にある。

○専門部会委員は多忙な本来業務の他に、様々な地域の役割をすでに担っており、当会の事業企画や事務局業務を担う余裕が十分にない。このため、当会の事業については、地域の活動として今以上に展開させることが難しい状況にある。

○地域の実態としては、当会による事業以外にも、道行政による医療連携系の事業や市町村（地域包括支援センター等）によるネットワーク構築系の事業、あるいは、各職能団体等が実施している関係者向けの研修など、当会と方向性を同じくする各種事業が実施され成果をあげている。このような情勢の中、地域における当会の役割が地域関係者にとって分かり難いものになっている。

○総会や事務局などが十分に機能しておらず、組織体制の形骸化が進んでいる。

地域（地域住民）に向けての活動内容

なし

他の圏域に質問したいこと

○収入がない、あるいは不足している圏域における、組織運営や事業運営上の工夫など。

○解散が検討されている圏域における、そこに至る経過および組織運営や事業運営の現状など。

○委員はボランティアとして推進会議に関する活動をしているのか、それとも、業務の一貫として活動しているのか。

特にアピールしたい活動

○設立以降の活動についての評価を、他圏域にも参考にしてもらいたい（特に、補助金が無くなった際の運営や事業への影響など）。

広域支援センター代表者会議の日程についての意見

特になし